



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月6日

上場取引所 東

上場会社名 THK株式会社

コード番号 6481 URL <http://www.thk.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺町 彰博

問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略本部財務経理部長 (氏名) 中根 建治

TEL 03-5434-0300

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日

配当支払開始予定日

平成26年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	106,207	19.2	14,300	91.0	15,472	42.0	10,887	52.7
26年3月期第2四半期	89,099	1.9	7,486	2.1	10,897	97.0	7,128	90.5

(注)包括利益 27年3月期第2四半期 3,474百万円 (△82.3%) 26年3月期第2四半期 19,629百万円 (250.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	86.00	—
26年3月期第2四半期	56.31	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	341,834	222,433	64.6	1,743.22
26年3月期	336,416	222,148	65.3	1,736.51

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 220,677百万円 26年3月期 219,830百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	11.00	—	15.00	26.00
27年3月期	—	20.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	215,000	15.9	28,000	61.2	30,000	27.0	20,000	28.3	157.99

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.5「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期2Q	133,856,903 株	26年3月期	133,856,903 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

27年3月期2Q	7,265,146 株	26年3月期	7,263,269 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	126,592,861 株	26年3月期2Q	126,595,988 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間においては、前半は日本における消費税増税を背景とした駆け込み需要後の反動減や米国での寒波の影響など先進国経済は一時弱い動きも見られましたが、後半になって次第に改善の動きが見られる中で世界経済は緩やかに回復しました。一方、新興国経済は以前の高い伸びと比べて鈍化しました。

当社グループでは、LMガイドをはじめとした当社製品の市場を拡大すべく「グローバル展開」と「新規分野への展開」を成長戦略の柱として掲げています。グローバル展開においては、新興国ではFA (Factory Automation) の進展などを背景としてマーケットは成長し、先進国でもユーザーの裾野が広がる中、これらの需要を取り込むべくグローバルで販売網の拡充に努めています。加えて、新規分野への展開においては、医療機器や航空機、ロボット、再生可能エネルギーなど新たな分野で当社製品の採用が広がる中、従来品のみならず新規開発品の売上高の拡大を図っています。当第2四半期連結累計期間においては、工作機械向けの需要の回復に加えてスマートフォンやタブレットPCなどに関する投資に牽引されエレクトロニクス関連の需要が増加する中、これまでに強化してきた事業体制を活かして積極的な拡販に努めました。それらの結果、需要を着実に売上高の増加に繋げることができ、さらに為替が前年同期に比べて円安で推移したことなどにより、連結売上高は前年同期に比べて171億7百万円(19.2%)増加し1,062億7百万円となりました。

コスト面では、経営基盤の強化に向けた部門横断プロジェクト「P25プロジェクト」をはじめとした各種改善活動が固定費の効率化並びに変動費比率の低下に寄与したことなどにより、売上高原価率は前年同期に比べて2.8ポイント低下し68.9%となりました。

販売費及び一般管理費については、売上高が増加する中でも各種費用の抑制や業務の効率化に努めたことなどにより、売上高に対する比率は前年同期に比べて2.3ポイント低下し17.6%となりました。

これらの結果、営業利益は前年同期に比べて68億1千4百万円(91.0%)増加し143億円となり、売上高営業利益率は5.1ポイント上昇し13.5%となりました。

営業外損益では、営業外収益は、為替差益が4億5千7百万円となったことに加え、持分法による投資利益が3億6百万円となったことなどにより、15億3千8百万円となりました。営業外費用は、支払利息が2億4百万円となったことなどにより、3億6千6百万円となりました。

これらの結果、経常利益は前年同期に比べて45億7千5百万円(42.0%)増加し154億7千2百万円、四半期純利益は37億5千8百万円(52.7%)増加し108億8千7百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

日本では、前半は消費税増税を背景とした駆け込み需要後の反動により個人消費が減少するなど経済に弱い動きが見られた一方、後半になって緩やかに改善の動きが見られました。当社においては工作機械向けの需要の回復に加え、スマートフォンやタブレットPCなどに関する投資に牽引されエレクトロニクス関連の需要が増加する中、積極的な営業活動を展開するとともに免震・制震装置など新たな市場の開拓に努めました。それらの結果、工作機械やエレクトロニクス、一般機械向けなど全般的に売上高を増加させることができ、売上高は前年同期に比べて83億7千6百万円(16.1%)増加し605億6千5百万円となりました。また、経営基盤の強化に向けた部門横断プロジェクト「P25プロジェクト」をはじめとした各種改善活動が固定費の効率化並びに変動費比率の低下に寄与したことに加え、為替が前年同期に比べて円安で推移したことなどにより、セグメント利益(営業利益)は前年同期に比べて47億2千8百万円(64.6%)増加し120億4千6百万円となりました。

(米州)

米州では、前半は寒波の影響によりこれまで堅調だった個人消費の伸びが鈍化した一方、後半になって経済が堅調に推移する中で設備投資に改善が見られました。そのような中、当社においては製販一体となって既存顧客の深耕を図るとともに、医療機器や航空機、エネルギー関連など新規分野の開拓に努めた結果、エレクトロニクスや工作機械、輸送用機器向けなどにおいて売上高を増加させることができました。さらに為替が前年同期に比べて円安で推移したことなどにより、売上高は前年同期に比べて28億5千8百万円(20.6%)増加し167億5千4百万円、セグメント利益(営業利益)は2億2千5百万円(37.1%)増加し8億3千5百万円となりました。

(欧州)

欧州では、引き続き経済に回復の動きが見られる中、製販一体となって既存顧客の深耕を図るとともに、医療機器や航空機、鉄道車両関連など新規分野を開拓すべく積極的な営業活動を展開しました。それらの結果、工作機械や一般機械、エレクトロニクス向けなどにおいて売上高を増加させることができ、さらに為替が前年同期に比べて円安で推移したことなどにより、売上高は前年同期に比べて16億7千1百万円(19.4%)増加し103億円、セグメント利益(営業利益)は前年同期に比べて13億8千2百万円増加し9億3千1百万円となり、黒字転換しました。

(中国)

中国では、自動車生産は引き続き好調に推移した一方、経済成長は以前の高い伸びと比べて鈍化しました。当社においては、スマートフォンやタブレットPCなどに関する投資に牽引され、小型の工作機械向けを中心として需要は増加しました。そのような中、これまで強化してきた販売網を活かし積極的な営業活動を展開した結果、工作機械や一般機械、輸送用機器など幅広い向け先において売上高を増加させることができ、売上高は前年同期に比べて36億3千2百万円(40.7%)増加し125億4千6百万円となりました。またセグメント利益(営業利益)は、主に売上高の増加などにより、前年同期に比べて3億8千8百万円増加し1億6千6百万円となり、黒字転換しました。

(その他)

その他では、台湾やインド・アセアン地域において、スマートフォンやタブレットPCに関する投資に牽引され、小型の工作機械向けなどを中心に需要が増加する中、既存顧客の深耕を図るとともに、新規顧客を開拓すべく積極的な営業活動を展開しました。それらに加え、為替が前年同期に比べて円安で推移したことにより、売上高は前年同期に比べて5億6千9百万円(10.4%)増加し60億3千9百万円、セグメント利益(営業利益)は2億5千万円(74.3%)増加し5億8千6百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、現金及び預金が12億3百万円、受取手形及び売掛金が82億4千5百万円、仕掛品が11億1千万円増加しましたが、建物及び構築物（純額）が13億8千5百万円、機械装置及び運搬具（純額）が35億7千8百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ54億1千8百万円増加の3,418億3千4百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金が45億9千万円、長期借入金が100億円、退職給付に係る負債が16億5千1百万円増加しましたが、1年内償還予定の社債が100億円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ51億3千3百万円増加の1,194億1百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が77億2百万円増加しましたが、為替換算調整勘定が71億1千1百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ2億8千5百万円増加の2,224億3千3百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想につきましては、本日（平成26年11月6日）公表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

一部の連結子会社については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を、割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が1,663百万円増加し、利益剰余金が1,285百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	138,343	139,546
受取手形及び売掛金	52,557	60,802
商品及び製品	12,019	11,452
仕掛品	5,185	6,296
原材料及び貯蔵品	11,561	11,924
その他	8,355	8,556
貸倒引当金	△131	△116
流動資産合計	227,890	238,462
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	28,738	27,353
機械装置及び運搬具（純額）	43,177	39,599
その他（純額）	22,922	22,237
有形固定資産合計	94,838	89,189
無形固定資産		
のれん	893	702
その他	3,320	3,324
無形固定資産合計	4,213	4,027
投資その他の資産		
投資有価証券	6,438	6,907
その他	3,082	3,295
貸倒引当金	△46	△47
投資その他の資産合計	9,474	10,155
固定資産合計	108,526	103,372
資産合計	336,416	341,834

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,411	30,001
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	5,808	5,150
賞与引当金	2,957	3,364
その他	10,312	10,246
流動負債合計	54,490	48,763
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	—	10,000
役員退職慰労引当金	127	102
製品保証引当金	149	151
退職給付に係る負債	4,083	5,735
その他	5,416	4,648
固定負債合計	59,777	70,637
負債合計	114,267	119,401
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,606	34,606
資本剰余金	44,584	44,584
利益剰余金	141,474	149,177
自己株式	△13,934	△13,939
株主資本合計	206,731	214,429
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	801	1,020
為替換算調整勘定	12,930	5,818
退職給付に係る調整累計額	△632	△591
その他の包括利益累計額合計	13,099	6,248
少数株主持分	2,317	1,756
純資産合計	222,148	222,433
負債純資産合計	336,416	341,834

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	89,099	106,207
売上原価	63,859	73,205
売上総利益	25,239	33,001
販売費及び一般管理費	17,753	18,700
営業利益	7,486	14,300
営業外収益		
受取利息	199	243
持分法による投資利益	211	306
為替差益	3,200	457
その他	571	530
営業外収益合計	4,183	1,538
営業外費用		
支払利息	408	204
その他	364	162
営業外費用合計	773	366
経常利益	10,897	15,472
特別利益		
固定資産売却益	4	7
特別利益合計	4	7
特別損失		
固定資産除売却損	21	19
特別損失合計	21	19
税金等調整前四半期純利益	10,880	15,460
法人税、住民税及び事業税	3,813	5,370
法人税等調整額	△110	△786
法人税等合計	3,702	4,584
少数株主損益調整前四半期純利益	7,177	10,876
少数株主利益又は少数株主損失(△)	48	△10
四半期純利益	7,128	10,887

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,177	10,876
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	142	221
為替換算調整勘定	12,105	△7,462
退職給付に係る調整額	—	44
持分法適用会社に対する持分相当額	203	△205
その他の包括利益合計	12,451	△7,402
四半期包括利益	19,629	3,474
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,319	4,035
少数株主に係る四半期包括利益	309	△561

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,880	15,460
減価償却費	5,432	5,481
固定資産除売却損益(△は益)	16	18
引当金の増減額(△は減少)	502	388
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	68
受取利息及び受取配当金	△232	△285
支払利息	408	204
為替差損益(△は益)	△3,858	△1,254
持分法による投資損益(△は益)	△211	△306
のれん償却額	178	176
売上債権の増減額(△は増加)	△2,061	△9,062
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,354	△1,729
仕入債務の増減額(△は減少)	2,961	5,290
その他	1,417	276
小計	14,078	14,727
利息及び配当金の受取額	382	488
利息の支払額	△361	△221
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,320	△5,833
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,779	9,161
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△5,254	△3,568
固定資産の売却による収入	180	182
投資有価証券の取得による支出	△8	△8
貸付けによる支出	△0	△0
貸付金の回収による収入	1	1
その他	△28	△29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,110	△3,423
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	10,000
社債の発行による収入	20,000	—
社債の償還による支出	—	△10,000
配当金の支払額	△1,136	△1,894
少数株主への配当金の支払額	△3	△15
自己株式の取得による支出	△2	△4
自己株式の売却による収入	0	—
リース債務の返済による支出	△120	△133
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,737	△2,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,334	△2,486
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	31,740	1,203
現金及び現金同等物の期首残高	115,967	138,343
現金及び現金同等物の四半期末残高	147,708	139,546

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	日本	米州	欧州	中国	その他	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
売上高								
外部顧客への売上高	52,189	13,896	8,628	8,914	5,470	89,099	—	89,099
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20,809	7	11	2,240	338	23,407	(23,407)	—
計	72,998	13,904	8,639	11,154	5,809	112,506	(23,407)	89,099
セグメント利益 又は損失(△)	7,317	609	△451	△221	336	7,590	(104)	7,486

(注) 1. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本、中国以外の各区分に属する主な国又は地域

(1) 米州……………アメリカ等

(2) 欧州……………ドイツ、フランス等

(3) その他……………台湾、シンガポール等

3. セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	日本	米州	欧州	中国	その他	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
売上高								
外部顧客への売上高	60,565	16,754	10,300	12,546	6,039	106,207	—	106,207
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,794	19	16	1,849	554	24,234	(24,234)	—
計	82,360	16,774	10,316	14,395	6,593	130,441	(24,234)	106,207
セグメント利益	12,046	835	931	166	586	14,565	(264)	14,300

(注) 1. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本、中国以外の各区分に属する主な国又は地域

(1) 米州……………アメリカ等

(2) 欧州……………ドイツ、フランス等

(3) その他……………台湾、シンガポール等

3. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。